



TITLE:

京大広報 No. 275

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 275. 京大広報 1984, 275: 527-532

ISSUE DATE:

1984-06-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209410>

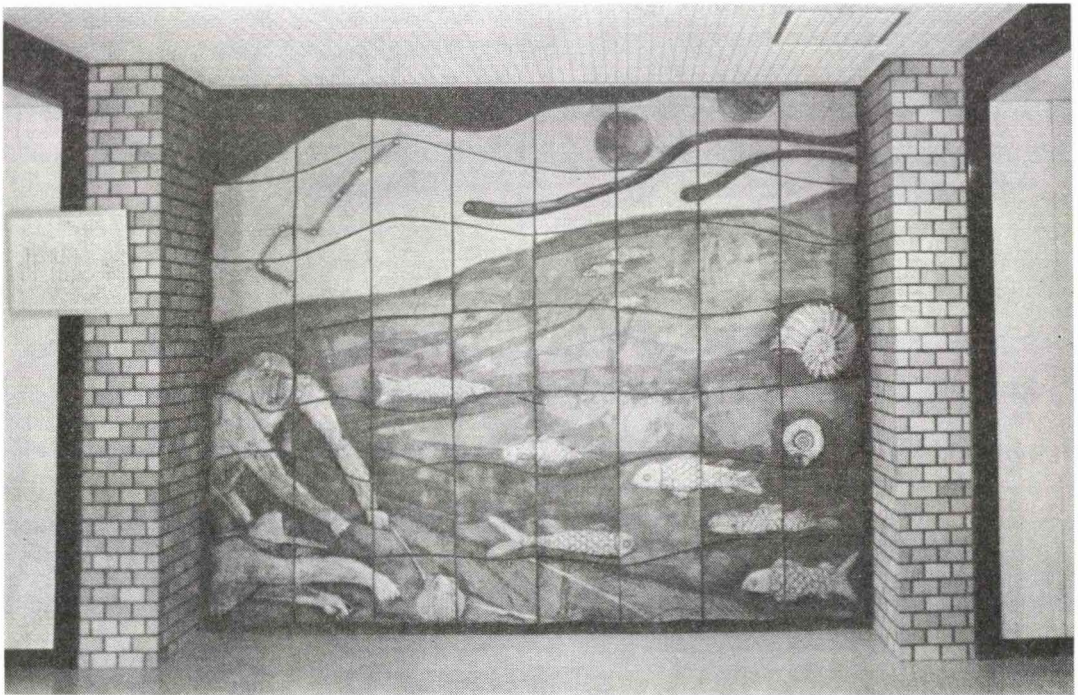
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 275

京都大学広報委員会



陶版壁画「うみさち」

(水産実験所水産生物標本館玄関正面) —関連記事本文528ページ—

目次

慶北大学との学術交流

一沢田総長，大韓民国の大学等を訪問— 528

農学部・水産実験所

水産生物標本館等が完成— 528

〈資料〉

昭和59年度新設の組織・大型設備— 529

〈紹介〉

経済研究所 海外学術調査(中国) — 530

計報・日誌— 531

端艇部，朝日レガッタで優勝— 531

〈随想〉

図書館と建て物 名誉教授 平岡武夫— 532

<大学の動き>

慶北大学との学術交流

一 沢田総長、大韓民国
の大学等を訪問—

沢田敏男総長は、6月4日から大韓民国慶北大学との学術交流に関する協定の締結及び高等教育・研究機関の視察のため同国を訪れ、予定どおり6月8日帰国した。

本学と慶北大学との学術交流については、昭和52年2月7日に同大学と覚書を交換（本広報 No. 192参照）、その後、学内で具体化の検討が重ねられ、今回の訪問で次の「学術交流に関する協定」が締結された。

また、沢田総長は、慶北大学のほか、ソウル大学、高麗大学、文教部等を訪れ、各訪問先においてそれぞれ関係者と意見交換を行った。

京都大学と慶北大学校との学術交流
に関する協定

京都大学総長と慶北大学校総長は、両大学の教育及び研究の協力と交流を推進するために、ここに学術交流に関する協定を締結する。

1. 両大学は、双方の学術交流を拡大、推進するために、特に次の諸活動を行うことを奨励する。
 - (1) 学術資料、刊行物及び情報の交換
 - (2) 教員又は研究者の交流
 - (3) 学生の交流
 - (4) 共同研究及び研究集会の実施
2. 前項の諸活動の具体化については、両大学間で緊密に連絡し、協議して実施に当たる。
3. この協定を変更又は解消する場合は、両者の協議によるものとする。
4. この協定は、日本語及び韓国語で作成され、両文書は等しく正文である。

昭和59年6月5日

京都大学総長
沢田 敏男

慶北大学校総長
徐 元 燮

<部局の動き>

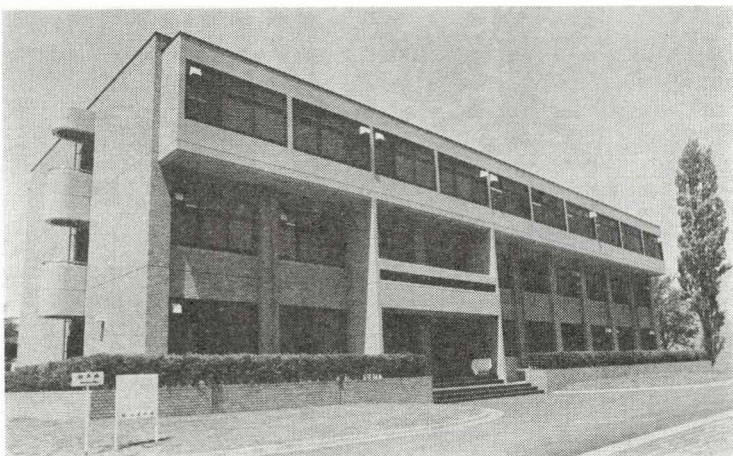
農学部・水産実験所
水産生物標本館等が完成

農学部附属水産実験所（舞鶴市長浜）構内に、舞鶴地区整備計画第一期工事として、水産生物標本館、農業工学科水理実験棟及び学生実習宿舍施設が新営され、5月24日（木）午後1時から本水産実験所において、沢田敏男総長、町井正登舞鶴市長をはじめ、学内外から多数の来賓の出席のもとに竣工披露が行われた（本水産実験所については、本広報 No. 221参照）。

新営された水産生物標本館（写真）は鉄筋コンクリート3階建、延1,855㎡。日本最大の魚類標本コレクションを整理・保存する標本室計867㎡、骨格・仔稚魚・海藻の各標本室計185㎡のほかに、

実験室・文献室・セミナー室・研究室などの研究設備もそなえている。また、本館の玄関正面壁に、京都市立芸術大学 藤平 伸教授の作による海の幸をモチーフにした陶版画「うみさち」（表紙写真）が飾られ、訪れた人の気分を柔げている。

現在、水産実験所の利用者は年間延約4,000人



水産生物標本館

であるが、世界有数の内容をもつ本標本館の完成を契機に、国内外からの訪問者の増加が予想されている。

木造1階建の旧講義室を改造して使用していた宿泊室に代って新営された学生実習宿泊施設棟は、鉄筋コンクリート2階建、延 484 m²。炬^{せつき}器質白調タイル張りで黒目地によりアクセントをつけた外装の、モダンな建物である。1階には食堂兼談話室・調理室・大小浴室などのほか、各2～3人用の和室3室がある。らせん階段で導かれた2階にはベッド室5室があり、学生40人を収容できる。

なお、現在、本実験所敷地（約4万m²）の約

半分は農業工学科淡水湖化実験場として利用されているが、このたび水理実験棟が新営された。

同実験棟は、鉄骨一部鉄筋コンクリート造、地上1階、延 582 m²。実験水路2基を有する水理実験室、実験準備室、測定機器格納庫及び工作室より構成され、さらにコンクリート製82トンの淡水地下タンク及び同21トンの塩水地下タンクも設備されている。

附帯して合併処理施設及び実験排水貯留槽が新設され、さらに老朽木造建物17棟を撤去した後の構門、通路、芝生等の整備も行われ、構内は面目を一新した。

（農学部）

<資 料>

昭和59年度新設の組織・大型設備

今年度新設の講座、研究部門、診療科及び大型設備は次のとおりである。

講 座

部 局	講 座	備 考
経 済 学 部	経 営 学 経 営 政 策 市場・会計分析	経営学科の改組に伴う大講座の新設
医 学 部	臨床検査医学	

研究部門

部 局	研 究 部 門	備 考
木 材 研 究 所	高耐久性木材開発	各研究部門は昭和69年3月31日まで存続（時限10年）
数 理 解 析 研 究 所	代 数 解 析	
東南アジア研究センター	水 文 環 境	
医用高分子研究センター	人 工 臓 器	医用高分子研究センターは昭和65年3月31日まで存続（時限10年）

診 療 科

部 局	診 療 科	備 考
結核胸部疾患研究所	理学呼吸器科	放射線科の転換

大型設備

部 局	設 備
理 学 部	トーラス型プラズマ実験装置
医学部附属病院	全身用 NMR-CT（スーパー型）
工 学 部	超強力X線回折装置
原子炉実験所	1号炉共同利用研究実験設備
超高層電波研究センター	MU レーダー装置
ヘリオトロン核融合研究センター	ヘリカルコイル給電装置

< 紹 介 >

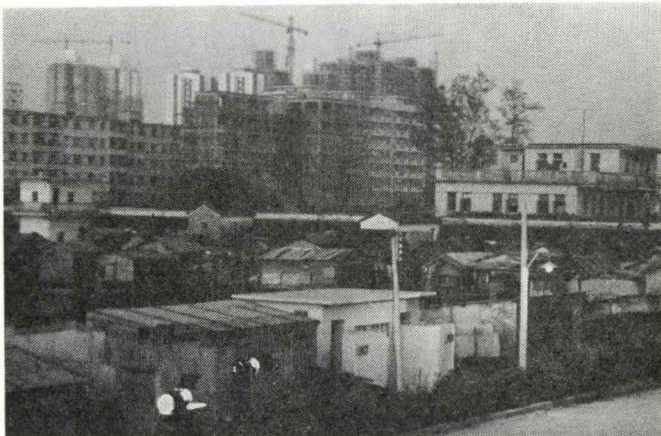
経 済 研 究 所 海外学術調査 (中国)

経済研究所は産業経済に関する理論的実証的研究を行うことを目的として1962年4月本学に附置された。現在、産業構造、比較産業、地域経済、資源経済、計画経済、産業統計、環境経済、比較経済体制、現代経済分析、比較経済分析の10研究部門から成っており、このうち後の2部門は、国内外の研究者を客員として招くためのものである。

部門名からも明らかなように、本研究所の部門は、経済学の理論上の分野別という通常の構成をとらず、現実重要になってきた研究対象を軸にして編成されているところに特徴をもっている。このような考え方からまた、複数の部門にまたがった研究も重視されている。

1983年度に「環太平洋地域における外国投資と資源・エネルギー開発および環境保全に関する調査研究」(以下「開発と環境」に略す)に対して、文部省から海外学術調査のための科学研究費補助金が交付された。また、この調査には京都大学創立七十周年記念後援会からの助成金が交付された。この調査は二つのグループで行われた。一つは、中国の「開発と環境」の調査であり、いま一つは、シンガポール、タイ、フィリピンにおける「開発と環境」の調査であった。ここでは、前者についてのみ紹介することとする。

中国での調査は、宮崎義一元本研究所教授を団



変貌する深圳の様子。前景は、60年代の住宅、後に近代的なビルが建設中である。

長とし、研究所のスタッフ3名に、所外から1名の研究者が加わり、1983年11月16日から12月2日まで現地で調査を行った。

中国は、1979年から対外経済解放政策を積極的にすすめているが、その際日本を含む先進資本主義国から資本を導入し、進んだ技術と経営管理方法を学ぶことに意を注いでいる。資本、技術、経営管理能力の三者を同時に吸収するための最善の方法は、合弁企業形態であるので、合弁企業をめぐる諸問題が、今回の調査の重要な対象となった。折しも中国では「中外合資経営企業法实施条例」が公布された直後でもあり、北京の対外経済貿易部条約法律局、国際投資信託公司、福建省投資企業公司、広東省対外経済工作委員会等で多くの討論を行うことができた。

もう一つの中国対外経済政策における重要な施策は、「経済特区」を^{しんせん}発展させようとしていることである。広東省の^{しんせん}深圳、^{しんせん}珠海、^{しんせん}汕頭並びに福建省の^{あもい}廈門に、経済特区という一画を建設し、外国資本を特別の優遇措置によって誘致しようとするものである(写真)。これは社会主義国では他に例をみない政策であり、1997年に予定されている香港の施政権返還とも関連して興味深い研究対象となっている。

経済開発は、環境変化を随伴する。従って、中国での環境調査も一つの課題とされた。実態把握、環境政策の内容についての調査のため、北京で環境保護局を、広州で環境保護科学研究所を訪れた外、上海では詳細な聞き取りを行った。

調査団は、上記三つのテーマを軸にして、北京、天津、上海、福州、広州、深圳、香港各地で、主として関係官庁と社会科学院において討論を行ったが、その外20日間に及ぶ日程のなかで、かなりの数の工場を訪れることができたのは極めて有意義であった。訪れた工場のなかには、日本との合弁会社である「中国東方租賃有限公司」、日立製作所との合弁でテレビを生産している「福日公司」、わが国で初めての100%出資会社で深圳蛇口地区にある「三洋電機有限公司」が含まれている。

中国側は社会科学院が調査団の受入れ

を引きうけてくれたお蔭で、各地の社会科学院との連絡も支障なく運び、我々の調査活動は順調に進んだ。調査団は、今度の成果をもとにして、研

究交流と調査活動を更に発展させることを願っている。

(経済研究所)

計 報

井上 智勇 (本学名誉教授・文学博士)

6月5日逝去, 78歳。本学文学部卒業。昭和23年本学文学部教授就任, 45年退官。その間評議員(31年~33年), 文学部長(39年~41年)を歴任。同52年勲二等旭日重光章受章。専門は西洋史。

田中 稔 (結核胸部疾患研究所管理課技官)

6月8日逝去, 52歳。昭和39年結核研究所(結核胸部

疾患研究所)勤務, 同56年結核胸部疾患研究所管理課に配置換。

久保 健治 (原子エネルギー研究所技官)

6月9日逝去, 49歳。昭和35年から工学研究所(原子エネルギー研究所)勤務。同55年本学永年勤続者表彰(20年勤続)を受ける。

日 誌

(1984年5月1日~5月31日)

- | | |
|--|---|
| 5月1日 大学院審議会 | 24日 農学部附属水産実験所水産生物標本館・農業工学科水理実験棟及び学生実習宿泊施設竣工披露 |
| 8日 評議会 | 25日 アメリカ合衆国日米友好基金 Wesley Glenn Campbell 理事長外1名来学, 総長及び関係教官と懇談 |
| 16日 国際交流委員会 | 26日 中華人民共和国教育部 黄 辛 白 副部長外2名来学, 総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学 |
| ク 放射性同位元素等管理委員会 | 28日 学位授与式 |
| 19日 アメリカ合衆国 North Carolina 州立大学 Jasper Memory 大学院長外9名来学, 国際交流委員会委員長をはじめ理・工・農各学部長等と懇談及び学内施設見学 | 31日 ドイツ連邦共和国 Duisburg 大学 Adam Weyer 総長来学, 総長及び関係教官と懇談 |
| 20日 人文科学研究所の故川勝義雄教授追悼式 | |
| 22日 評議会 | |
| ク 大学院審議会 | |
| ク 保健衛生委員会 | |
| 23日 木材研究所創立40周年記念講演会 | |

端艇部, 朝日レガッタで優勝

昭和59年5月3日から5日まで、琵琶湖漕艇場で開催された第37回朝日レガッタにおいて、本学端艇部はシェルエイトの種目で優勝した。

(学生部)

